



このイラストはAIで生成しています

ていじせい 定時制の旋風

2026年 3月号

発行者 教頭 松本康一

県立小野工業高等学校 定時制課程

「夜を越え、確かな一歩を刻む皆さんへ」

今年度も締めくくりの時期を迎えました。生徒の皆さん、この一年間本当によく頑張りました。仕事と学業の両立、あるいは一度途切れた学びを再開させる決意。皆さんがこの校門をくぐるまでには、人知れず葛藤し、足が止まりそうになった夜も何度もあったはず。定時制という場所を選び、今日まで歩みを止めなかった。その事実こそが、皆さんという人間を強く、しなやかに育ててきました。

思うような結果が出ず、自分を責めた日もあったかもしれません。しかし、泥臭く積み重ねた日々の努力は、目に見えなくとも、皆さんの血肉となって未来を支える土台となります。焦る必要はありません。大切なのは、他人の物差しで自分を測るのではなく、去年の自分より一歩でも前へ進もうとするその意志です。

来年度、新しい教科書を開くとき、それは「新しい自分」に出会う扉を開くときでもあります。私たちは、皆さんの「学びたい」「変わりたい」という純粋な願いを、これからも全力で支え続けます。来年度も、この学び舎で共に成長していきましょう。

【表彰式】2月24日(火)

会議室にて、四年生と三修制三年生の表彰式が行われました。学業や資格取得、部活動に生徒会活動など、多方面で優秀な成績を収めた多くの生徒が表彰を受けました。高校生活における地道な取り組みが、見事に花を咲かせた受賞者の皆さんに、心からの拍手を送ります。



【卒業生を送る会】2月24日(火)

会は、後輩から卒業生への寄せ書きと記念品の贈呈で幕を開けました。手書きのメッセージに多くの卒業生が目頭を熱くする中、続いて軽音楽同好会が登場。名曲『栄光の架橋』を熱演しました。

苦悩や挫折を越えて進む歌詞の世界観は、日々を懸命に歩んできた定時制の卒業生たちの生きざまと重なり、会場は深い感動に包まれました。温かい贈り物と力強いライブ。感謝とエールが一つになった、輝かしい門出のひとつとなりました。



【卒業式】2月25日(水)

厳粛さと温かさに包まれた、感動深い卒業式となりました。特に、卒業生一人ひとりが自らの歩みを振り返る「ムーンライトメッセージ」には、強く心を打たれました。働きながら学び抜いた葛藤や、周囲への感謝が込められた言葉の重みは、聴く者すべての胸に深く刻まれました。この学び舎で培った強さを糧に、自信を持って新しい世界へ踏み出してください。皆さんの前途に幸多からんことを願っています。



(文責 教頭 松本 康一)